

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

研究課題名	鼻腔通気度と CPAP 内部データの関係
対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	2007 年度以降、当院で鼻腔通気度検査と CPAP の加療をされた患者さん。
概要	<p>鼻呼吸障害は閉塞性睡眠時無呼吸症候群(OSA)の重症度に関与するといわれています。さらに、鼻呼吸障害は持続気道陽圧(CPAP)療法の使用の適否にも影響を与えることが知られています。しかし、CPAP は残存する呼吸イベント(eAHI)や使用状況を内部データとして記録しますが、鼻腔通気度や CPAP の使用状況と eAHI やアドヒアランスとどのような関連があるのか、あまりわかっていません。そこで、CPAP の有効性やアドヒアランスと鼻腔通気度の関係を明らかにすることで、実臨床における CPAP 治療にどの程度、鼻呼吸障害に注意が必要か明らかにし、CPAP の有効性を高めるために、本研究を計画しました。</p>
申請番号	2018 - 0050
研究の目的・意義	鼻腔通気度と CPAP 内部データを評価し、CPAP 治療に対する鼻呼吸障害の重要性を解明するため
研究期間	倫理審査委員会承認日から 2025 年 3 月まで
情報の利用目的及び利用方法(他の機関へ提供される場合はその方法を含む。)	カルテに保存されている病歴、血液検査結果、生理機能検査結果、CPAP・PSG データを利用します。使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行い、研究に使用します。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。
利用または提供する情報の項目	病歴(年齢、性別、身体所見、既往歴、治療状況、職歴、主観的眠気アンケート)、血液検査結果、生理機能検査結果(鼻腔通気度検査、PSG)、CPAP 使用状況(設定、設定条件変更の状況、マスクの種類、加温加湿の有無、アドヒアランス、CPAP 機種)
利用の範囲	新潟大学 呼吸器・感染症内科
¹⁰ 試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学 呼吸器・感染症内科 助教 大嶋 康義
¹¹ お問い合わせ先	新潟大学医歯学総合病院 呼吸器・感染症内科 大嶋 康義 Tel : 025 - 368 - 9325 E-mail : ohshima@med.niigata-u.ac.jp